

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。
 <区分>①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

(区分) ②

(理由) リボソームに膜融合させた金属錯体型糖鎖を用いて、糖鎖のレクチン認識能を蛍光偏光法で評価できることを実証したことにより、本年度に実施予定としていた生体膜上の糖鎖が示す分子(タンパク)認識能の解析が達成されたと判断できる。

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

平成 22 および 23 年度に合成した膜融合特性をもつ金属錯体型糖鎖を癌細胞膜に反応させ、細胞内への取り込み反応を蛍光法(蛍光顕微鏡、セルソーター、マイクロプレートリーダー)を用いて評価する。特に、糖鎖の種類に依存した取り込み特性を詳細に評価する。また、正常細胞と癌細胞に対する取り込み反応を比較し、癌細胞に特異的に反応する金属錯体型糖鎖を探索する。

13. 研究発表 (平成 23 年度の研究成果)

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

[雑誌論文] 計 (1) 件 うち査読付論文 計 (1) 件

著者名	論文標題			
Tomoko Okada	Application of Functionalized Metalloglycoclusters			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Trends in Glycoscience and Glycotechnology	有	23	2011	284-291
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

[学会発表] 計 (3) 件 うち招待講演 計 (0) 件

発表者名	発表標題		
田野倉 大智・今泉 竜一・岡田 朋子・箕浦 憲彦	脂質を持つ新規なルテニウム錯体型糖鎖プローブ分子を利用した分子認識能評価		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本化学会第92春季年会	2012年3月25日	慶応大学 (神奈川県)	

発表者名	発表標題		
今泉 竜一・岡田 朋子・箕浦 憲彦	リンカー鎖長を制御したルテニウム錯体型糖鎖プローブ分子の合成		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本化学会第92春季年会	2012年3月25日	慶応大学 (神奈川県)	

発表者名	発表標題		
田野倉 大智・今泉 竜一・岡田 朋子・箕浦 憲彦	糖鎖とレクチン間の相互作用を評価するためのルテニウム錯体型糖脂質の創製		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第5回バイオ関連化学シンポジウム	2011年9月12日	つくば国際会議場 (茨城県)	

〔図書〕 計 (0) 件

著者名	出版社		
書名	発行年	総ページ数	
	■ ■ ■		

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計 (0) 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計 (0) 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

--